

## 第39回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時: 平成 24年1月18日(水) 13:30～17:00
2. 開催場所: 日本電気協会 6階会議室
3. 参加者 : (順不同, 敬称略)
  - 出席者: 笹原主査(電中研), 野村副主査(関西電力), 稲垣(中部電力), 岩橋(非破壊検査), 小田倉(日立 GE), 米谷(日立 GE), 関(三菱重工), 辰尾(北陸電力), 津金(原子力安全・保安院), 寺門(日本原電), 中川(中国電力), 西田(GE 日立), 濱中(東京電力), 濱野(IHI), 枡(電源開発), 松本(東北電力) (計 16 名)
  - 代理出席者: 安達(東芝・鈴木代理), 伊藤(東京電力・小島副主査), 加藤(日本非破壊検査協会・中山代理), 亀山(発電技検・佐藤代理), 坂本(JNES・河野代理), 細田(富士電機・新田代理), 松本(原子力エンジニアリング・原田代理), 山本(発電技検・小林代理) (計 8 名)
  - 欠席者: 大岡(日本溶接協会), 金井(Westinghouse Industry Products), 柴山(三菱重工), 杉江(原技協), 豊田(四国電力), 松本(九州電力) (計 6 名)
  - 常時参加者: 隠岐(関西電力), 南川(JNES) (計 2 名)
  - オブザーバ: 東海林(電中研) (計 1 名)
  - 事務局: 黒瀬(日本電気協会) (計 1 名)
4. 配付資料
  - 資料 39-1 委員名簿
  - 資料 39-2 第 38 回供用期間中検査検討会 議事録 (案)
  - 資料 39-3 JEAC4207 追補版 (案) に関する原子力規格委員会書面投票結果
  - 資料 39-4 JEAC4207-2008 20XX 追補版 原子力規格委員会 書面投票コメントリスト
  - 資料 39-5 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷規程 (JEAC4207-2008) 20XX 年追補版案 (書面投票対象版)
  - 資料 39-6 附属書 B 超音波自動探傷装置への要求性能
  - 資料 39-7 平成 24 年度活動計画 (案) (構造分科会分)
  - 資料 39-8 平成 24 年度各分野の規格策定活動
  - 参考資料 1 供用期間中検査検討会の今後スケジュール検討

### 5. 議事

#### (1) 代理出席者の承認, 会議定足数の確認

事務局より, 本日の代理出席者 8 名及びオブザーバ 1 名について主査の承認を得た。出席委員数は, 代理出席者を含めて 24 名で, 検討会決議に必要な条件 (委員総数の 3 分の 2 以上の出席) を満たしていることを確認した。

## (2) 前回検討会議事録（案）の承認

事務局から、資料39-2に基づき、前回議事録(案)が説明され、承認された。

## (3) JEAC4207 追補版（案）に関する原子力規格委員会での書面投票結果と意見対応方針の検討

資料 39-4 に基づき各意見への対応案が説明され、審議された。訂正すべき事項は無く、次回の構造分科会において確認を受けることとし、原子力規格委員会委員長に編集上の訂正として了承を得たうえで公衆審査に入る予定であることを確認した。

## (4) 平成 24 年度活動計画

資料 39-7 に基づき検討が行われた。

主な質疑・コメントは以下のとおり。

- JEAC4207-2008 はかなり充実できてきているという印象である。
- 国プロについては、BWR に関するもので規格化できるものはこれまでにほとんど取り込んできているという認識で新たにに取り込めそうな知見は見当たらない。PWR については NCS(APN)にてステンレス鋳鋼の調査が行われているものの、成果が纏まるまでにはまだ時間が必要と考えられる。またNNWについては、2008 年度版発行後に最終報告されておりインコネルに関してまだ規格に取り込んでいない部分が残っている。
- 前回の改定以降に、この規格が使われている現場の状況と規格の内容のずれが生じていないと良いのだが、そこは今回もアンケートを取って確認すべきではないか。
  - 前回のアンケートでは各委員が関連する企業等から細かくニーズを収集したため、収集した数は多かった。その多くを改定内容に取り込んだ。
  - 今回もアンケートを取る方向で考える。
- 前回議事録にあるとおり、電力共通研究の成果について、できれば反映して欲しい。
  - 電力共研の成果は原則として非開示であるが、公開文献化されているものについては、規格化検討に資することができると考えられ、例えば保全学会論文がある。公開文献の知見で規格化に使えるものがあれば検討していきたい。
- 超音波探傷試験記録のフォーマットの標準化については、前回から残っている課題であり、今回も検討する。
- 国の規制の考え方において、40 年運転を基本として 1 度だけ 20 年の延長の機会があるという流れになってきている。この延長時点の判断に検証手法ができれば良いのだが。
- 2008 年度版を制定した時は、普及のセミナーを開催した。今度の改訂時にも開催すべきか。
  - フェーズドアレイについては、他の一般産業ではまだ規格化されておらず、原子力が進んでいるので、是非セミナーを開催して欲しい。
  - 今回の追補版の中では、自動探傷の部分が大きなところだ。
  - 次の改訂に向け、ユーザーのご意見をお伺いするという意味でも有効である。
- 国際規格との関係をどのように考えるのか。議論しても良いのではないかと。また他の規格との関係はどうか。
  - 利用する場所によっては、ASME だけではだめでフランスの規格でという場合もある。
  - 実務的にはメーカーの責任で JEAC を英訳して外国との対応に使うということは、この規格でも行っている。量は別としてそういうニーズはある。
  - JIS の資格更新に新たに実技試験が入るという方向になっているので、その対応も必要と考えられる。

→NDIS 規格の変更点への対応もある。

- 電子 UT 記録のあり方等の検討については目標とする時期までは定められないが、24 年度からこれまで以上に検討する。

(5) その他

次回の検討会は 24 年度の活動開始となるので、それまでに下記のことを紹介できるよう準備をする。

- ASME 及び海外の動向
- 前回のアンケート状況紹介
- JNES 等の主要な調査成果
- 普及セミナーの説明項目や開催概要
- 保全学会等公開文献(電力共研を含む)のうち活用できる知見の紹介

この他に検討をしていくべきことがあれば、各委員から事務局まで連絡をすることとした。次回の検討会は、4 月後半に開催する。

以 上